



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

岡山県 岡山市立山南学園



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- **目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- **事業名** : JOCオリンピック教室
- **主催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- **後援** : スポーツ庁
- **協力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- **対象** : 中学2年生
- **講師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- **期間** : 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- **実施校数** : 80校程度
- **実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき
「オリンピックの価値」等を
伝える



個人またはグループワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です

※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 橋 雅子 先生 (水泳/シンクロナイズドスイミング※)【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年12月2日(金)

※現 : 水泳/アーティスティックスイミング

■ **ク ラ ス** : 8年A組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



- 水泳/シンクロナイズドスイミングで北京2008大会に出場したと自己紹介。シンクロナイズドスイミングは、水の中で音楽に合わせて踊り、同調性等を競う競技で、現在はアーティスティックスイミングと名称が変わったと説明。
- オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「友情」「仲間」、リスペクト：「敬意/尊重」と説明。運動の時間は、特に「フレンドシップ」を意識し、自分にとってクラスの仲間がどんな存在かを考える時間にしてほしい。準備体操は、柔軟体操と腹筋運動を実施。

○主運動 等



- 準備運動は、「体を使った後出しじゃんけん」を実施。先生のじゃんけんを見て、後出して勝つゲームと負けるゲームの両方を実施。
- 主運動は、「風船リフティング」を実施(全4回)。2つの班を合わせ、3チームの対戦とし、風船を落とさずにパスできた回数を競う。その際手を使わないように全員がタオルの端を持ち円を作る。途中作戦タイムを設け、どうすれば回数を増やせるかや皆で協力する方法を話し合う。



- 運動の時間を振り返り、どのチームも一人一人が意見を出し、お互いがアドバイスをしながら絶えず声掛けをしていたことは素晴らしい。普段の生活でも友達と同じ目的意識を持つことや、お互いの意見や考えを共有することで、より良い形ができていくことを忘れないでほしい。運動の時間は皆がそれを実践できていたので、今後の学校生活にも活かしてほしい。座学の時間は、自身のオリンピック出場までの経験を話すので、皆もオリンピックバリューについて一緒に考えようと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 橋 雅子 先生 (水泳/シンクロナイズドスイミング※)【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年12月2日(金)

※現 : 水泳/アーティスティックスイミング

■ **ク ラ ス** : 8年A組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・自己紹介の後、競技映像を見ながら、シンクロナイズドスイミングが2018年にアーティスティックスイミングに名称が変わった理由について、同調性だけではなく、表現力等の芸術的な部分が進化したことによると説明。自身がオリンピックを目指し、苦しい練習を乗り越え目標を達成できたのは、オリンピックバリューの特に「フレンドシップ」が大きかった。仲が良かっただけではなく、お互いを注意し合える関係性を築いたこと、失敗しても絶対に責めず助け合う気持ちを持ったことだと話す。目標達成のためには、日々の小さな目標を設定し、少しずつ達成していくことで、大きな夢を叶えることができる。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問 : 日常生活の中で、「フレンドシップ」につながる行動はどんなことが、またそれはどのオリンピックバリューに当てはまるか考えてみよう。

発表 : エクセレンス : 「何事もこつこつ努力を積み重ねる」「練習の時から本番の大会を考え全力で練習に取り組む」「自分の意見を伝える」等

フレンドシップ : 「ミスを責めない」「一人で抱え込まずに相談できる環境をつくる」「お互いを思い合う」「フォローし合う」等

リスペクト : 「仲間を尊敬する」「チームプレーが上手いかわなくても誰かのせいにしてない」「家族、仲間にありがとうの気持ちを忘れない」等



・座学の時間を振り返り、皆が今、好きなことに打ち込むことができたり、学校で学ぶことができる環境を当たり前だと思わず、全てのことに感謝の気持ちを忘れないでほしい。支えてくれている人々の力を自分の力にして、人から応援されるような人になってほしい。興味を持ったことには、前向きにチャレンジすることで夢を叶えることができる。2030年に北海道札幌市でオリンピック・パラリンピック冬季大会が開催されるようにぜひ皆で応援してほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 橋 雅子 先生 (水泳/シンクロナイズドスイミング※)【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年12月2日(金)

※現 : 水泳/アーティスティックスイミング

■ **ク ラ ス** : 8年B組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



- 水泳/シンクロナイズドスイミングで北京2008大会に出場したと自己紹介。シンクロナイズドスイミングは、アーティスティックスイミングに名称が変わったと説明。運動と座学の時間を通して、オリンピックやオリンピックパリュウ、そしてアーティスティックスイミングについて知ってもらいたい。
- オリンピックパリュウについて、「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の中で、特に「フレンドシップ」について、自身が意識してきたと話し、皆も学校生活を送る中で、友達やクラスの仲間がどんな存在かを考える時間にしてほしいと伝える。準備体操は、柔軟体操と腹筋運動を実施。

○主運動 等



- 準備運動は、「体を使った後出しじゃんけん」を実施。先生のじゃんけんを見て、後出して勝つゲームと負けるゲームの両方を実施。
- 主運動は、「風船リフティング」を実施(全4回)。2つの班を合わせ、3チームの対戦とし、風船を落とさずにパスできた回数を競う。その際手を使わないように全員がタオルの端を持ち円を作る。途中作戦タイムを設け、どうすれば回数を増やせるかや皆で協力する方法を話し合う。4回目は大小大きさの違う風船を同時に使用するルールへ変更。どのチームも100回を超える結果となる。



- 運動の時間を振り返り、風船リフティングでは、自身が思いつかないような作戦が見られ非常に面白かった。各チーム共に、友達同士アドバイスを送りながら、絶えず声掛けができていた。皆が同じ目標に向かって仲間を思いやり、一生懸命取り組んだ結果が数字に表れていて、オリンピックパリュウを感じた。座学の時間は、自身のオリンピック出場までの経験を話しながらオリンピックパリュウについて伝えるので、皆も一緒にオリンピックパリュウについて学んでほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 橋 雅子 先生 (水泳/シンクロナイズドスイミング※)【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年12月2日(金)

※現 : 水泳/アーティスティックスイミング

■ **ク ラ ス** : 8年B組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・自己紹介の後、映像を見ながら競技の説明をし、自身が着用した水着と髪飾りを披露。その装飾作業は全て母親の手作りである。また毎日の練習の送迎は父親が担当してくれ、家族の献身的なサポートのお陰で競技生活が送れた。メダル獲得を期待されていた北京2008大会で、惜しくもメダルが獲れず、応援してくれた人に申し訳ない気持ちでいっぱいだったが、自身に届いた多くのメッセージや感謝の言葉に、心が救われた。オリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」のすべてが自身の中にあつたと話す。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問 : 日常生活の中で、「フレンドシップ」につながる行動はどんなことが、またそれほどのオリンピックバリューに当てはまるか考えてみよう。

発表 : エクセレンス : 「ライバルとして闘争心を持つ」「周りを見て行動する」「目標を立て続ける」「努力と協力」「何事も積極的に取り組む」等

フレンドシップ : 「お互いを高め合う」「心をつなげる」「友達を一人にしない」「一人一人を見る」「友情に年齢は関係ない」等

リスペクト : 「支え合える存在でいること」「One for all, All for one」「失敗を責めない」「お互いを尊重する」「感謝の気持ちを伝える」等



・座学の時間を振り返り、グループワークで話し合った意見や考えをいつも忘れずに、これからの日常生活の中でオリンピックバリューを意識して過ごしてほしい。多くの人々の支えがあり、様々なことに挑戦することができる環境を、当たり前だと思わず、感謝の気持ちを常に持ち続けてほしい。支えてくれる人々の力を自分の力に替え、活躍してほしい。心から応援していると伝え、授業終了。

■集合写真

・8年A組



・8年B組



■ 記念品贈呈

・8年A組



・8年B組



■ 修了証贈呈

